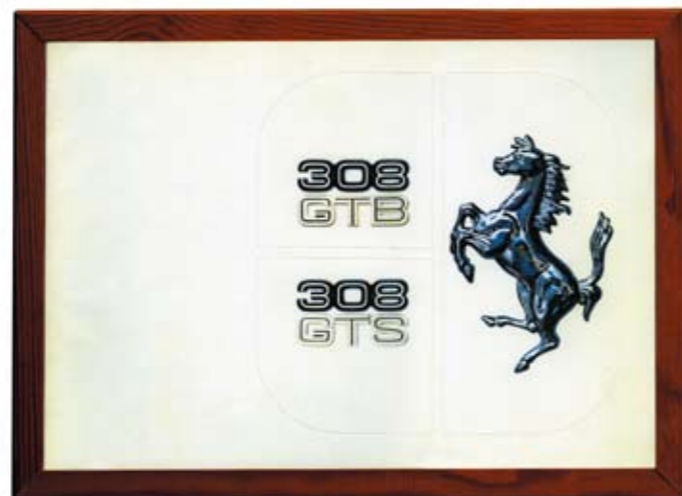


# 絶版輸入車 カタログギャラリー 特別編

好評連載「カタログギャラリー」の特別編として、  
V8 フェラーリの絶版カタログをいくつか紹介しよう。  
いずれも 30 年近く前のもので、往時の雰囲気が色濃く感じられる逸品だ。



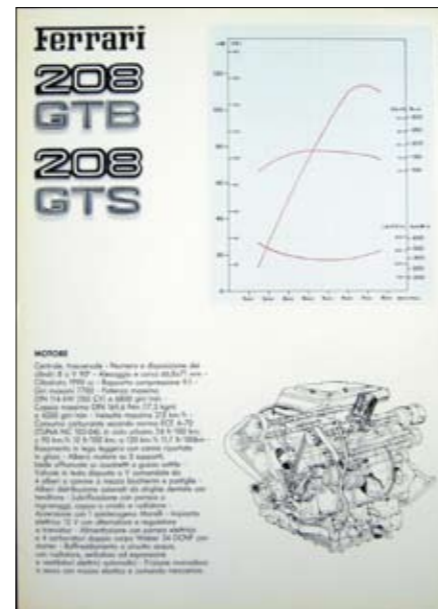
308  
GTB/GTS



308 は現在フェラーリの主力となっている V8・2シーターモデルの元祖。デビューは 1975 年のパリサロンだった。ピニンファリーナのスタイリストだったレオナルド・フィオラバンティによるスタイリングは評価が高く、今もファンが多い。このカタログは 1970 年代のもので、伊/英/独/仏に加え日本語とアラビア語も併記された「インターナショナル版」。車重の記載が 1090kg と軽いことからファイバーボディ時代のカatalogかとも思ったが、GTS (タルガトップ) の発売は GTB が全車スチールボディになった後なので、単なる記載ミスのような。ちなみにファイバーボディ車は US 仕様は 1976 年半ば、欧州仕様はその翌年の半ばまで生産されていた。

Special

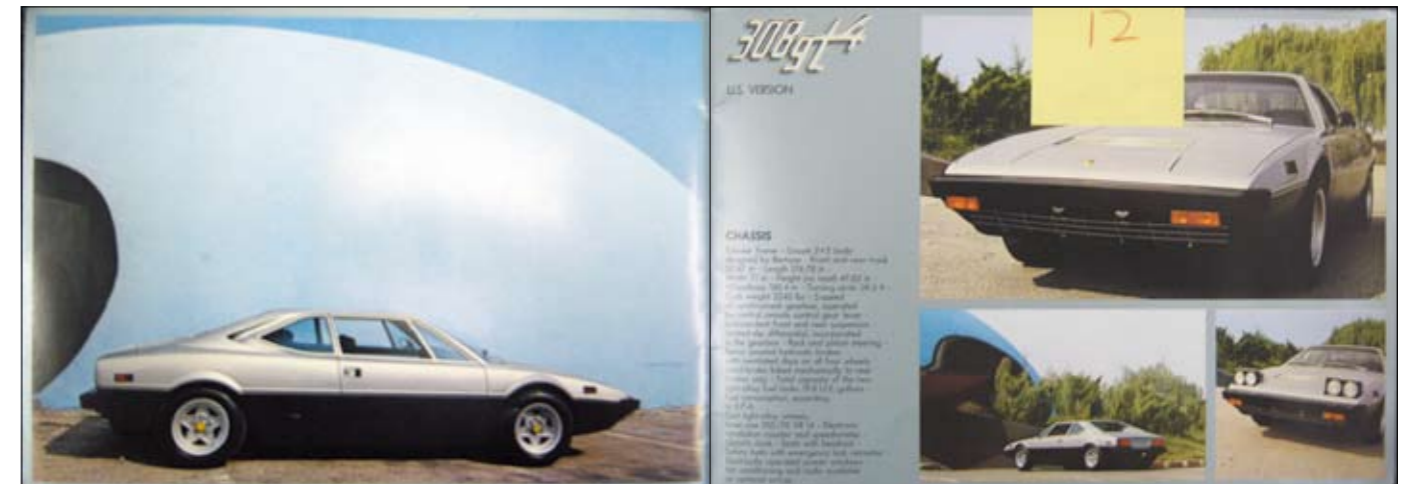
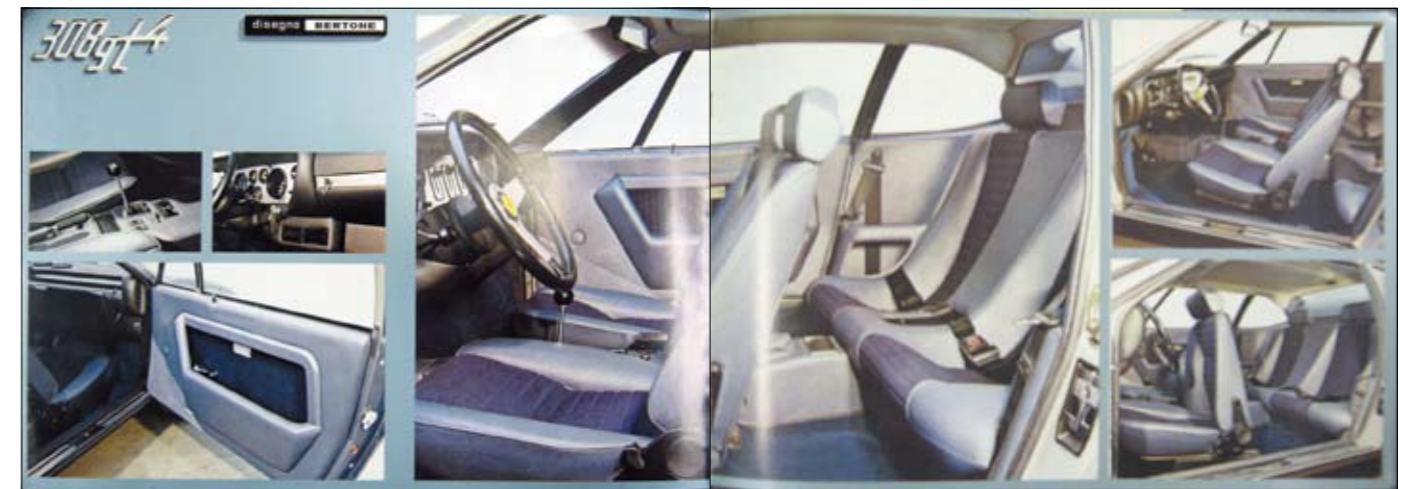
# 208 GTB / GTS



1980年に登場した208は、308用V8ユニットのボアを66.8mmまで縮小した2ℓ車。2ℓを境にI.V.A（付加価値税）が跳ね上がった時代のイタリア市場専用車で、このパンフレットにも「I.V.A = 18%」と大きく書かれている。最高出力は155bhp / 6000rpm。「節税フェラーリ」シリーズは82年にターボ付きも追加（220bhp / 7000rpm）され、328ボディにも受け継がれた（254bhp / 6500rpm）。

Special

# 308 GT4



ベルリネッタボディのGTBより2年早くデビューした、フェラーリ初のV8市販車がディーノ308GT4。末尾の4は4シーターを意味する。スタイリングを担当したのはフェラーリ御用達のピニンファリーナではなくベルトーネで、豊富なピニンデザインと異なり近代的なウエッジシェイプを特徴としたが、評判は芳しくなかった。加えて「ディーノ」の名もフェラーリの格下と見なされて敬遠されがちだった。よって1976年5月のマイナーチェンジを機に跳ね馬のエンブレムを装着、フェラーリ308GT4とされている。このカタログは78年に刷られたものなので、Dinoの文字は見当たらない。なお、308シリーズと同様に2ℓ版の208GT4も存在した。